

子どもの学力・学習状況調査

平成30年度全国学力・学習状況調査を町内の小学校と中学校で実施しましたので、結果を公表します。

なお、本調査の目的や結果は学力の特定部分であり、学校の教育活動の一側面であるため、新得町の子どもたちの学力の全て、学校教育の全てが結果として見えるわけではありません。



《平成30年度全国学力・学習状況調査の内容》

- ◇調査期日 平成30年4月17日(火)
- ◇調査学年 小学校6年生、中学校3年生
- ◇調査目的 全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果や課題の検証とその改善を図るとともに、教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

◇調査内容

- ①教科に関する調査(国語A、国語B、算数・数学A、算数・数学B、理科)
 - ※理科は3年に1度の実施
 - A問題(主として「知識」に関する問題)
 - 身に付けなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能など
 - B問題(主として「活用」に関する問題)
 - 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のために構想を立てて実践し、評価・改善する力など
- ②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
 - 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

【学力状況調査から見えてくること～中学校～】

国語A

平均正答率は全国を上回り、全道と同等だった。「読むこと」の領域に課題が見られた。

国語B

全国・全道の平均正答率を上回った。国語Aと同様、「読むこと」の領域に課題が見られたが、他の領域では全国・全道を大きく上回った。

数学A

全道の平均正答率を上回り、全国と同等であった。「資料の活用」の領域のみ下回り、課題が見られた。

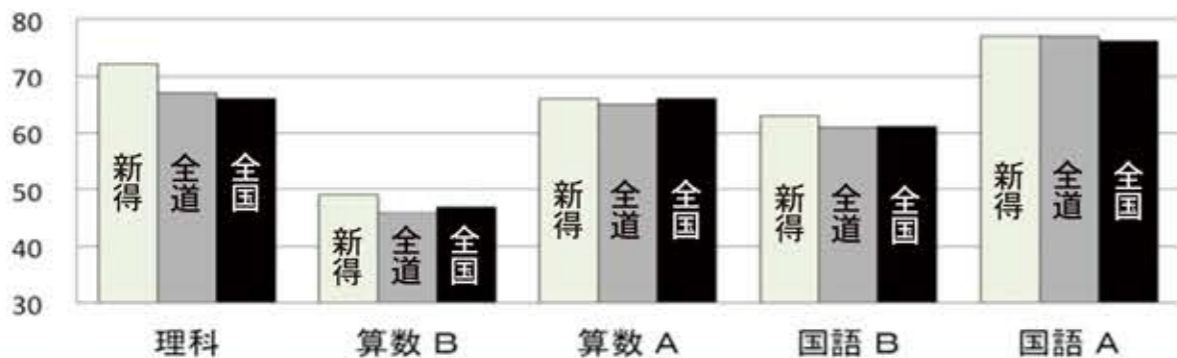
数学B

全国・全道の平均正答率を上回った。数学Aでは課題が見られた「資料の活用」の領域においても上回った。

理科

全国・全道の平均正答率を大きく上回り、いずれの領域でも学習の定着が見られた。

平均正答率の比較



学習状況調査から見えてくる様子(小中学校)

《学校生活》

- ・児童の8割、生徒のほぼ全員が学校での決まりを守っている。
- ・児童の7割、生徒の8割が友人との話し合い活動で、自分の考えを深めたり広げたりしている。

《家庭生活》

- ・ほとんどの児童生徒が、各自同じ時刻に起床・就寝し、毎日の朝食も習慣化されている。
- ・家庭での宿題の取り組みは、ほとんどの児童生徒が行っているが、勉強時間は1時間未満の児童が6割、生徒が5割を占めている。
- ・新聞を読む児童生徒は5割に留まっているが、ニュースは8割程度が見ている。

《学習面》

- ・理科の授業が好きな児童生徒は9割以上を占めるが、算数・数学が好きではない児童は4割、生徒は5割を占めている。

《その他》

- ・児童生徒の9割以上が人の役に立つ人間になりたいと思っている。しかし、将来の夢を持っている児童が8割なのに対して、生徒は6割と減少している。
- ・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思っている児童生徒が大半を占めている。

【学力状況調査から見えてくること～小学校～】

国語A

全国・全道の平均正答率を下回ったが、「話すこと・聞くこと、書くこと」の領域では全国・全道を上回った。

国語B

平均正答率は全道と同等であるが、「書くこと・読むこと」の領域では全国・全道を下回った。

算数A

平均正答率は全道と同等であるが、「数量関係」の領域に課題が見られた。

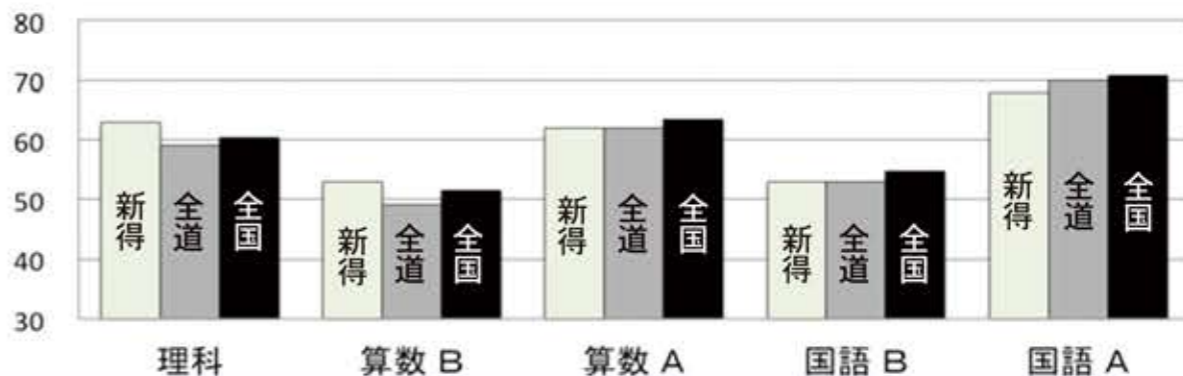
算数B

全国・全道の平均正答率を上回り、いずれの領域でも学習の定着が見られた。

理科

全国・全道の平均正答率を上回ったが、「自然現象への関心・意欲・態度」の領域のみ下回った。

平均正答率の比較



◆◆課題改善に向けての重点的な取り組み◆◆

学校教育では、全町教育の理念に基づき、児童生徒の学力における基礎・基本の定着や家庭学習の習慣化を図ります。また、豊かな人間性を育むために、児童生徒それぞれの個性や可能性を伸ばす教育活動を今後も推進します。

児童生徒が学ぶための知識や技能の確かな定着と活用、学習意欲の向上を図ることが課題となるため、次の事項に重点を置き、課題の改善に向けて取り組みます。

①学校改善プラン、少人数・個別指導、学習サポートの推進

今回の調査結果を含め、課題を検証し、具体的な取り組みを明確にした「学校改善プラン」を推進します。また、基礎・基本的な学力の定着を図るための「少人数・個別指導」や「学習サポート」を推進します。

②家庭における規則正しい生活習慣と学習習慣の定着

毎日の食事や起床・就寝、家庭学習等は各家庭での指導や協力があって改善されるものです。「家庭学習の手引き・家庭教育ガイド」を活用し、規則正しい生活や学習習慣の定着のためにご指導とご協力をお願いします。

③学校と家庭の連携

一人一人の子どもたちの課題を解決するためには、学校と家庭が連携して情報を共有することが必要です。その上で、互いに協力し合い具体的な解決策を模索していくことが重要です。